

残留農薬検査(その3)

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成22年9月から12月末の期間に食品専門監視班及び各区福祉保健センターより搬入された農作物等の検査結果を報告します。

1 市内産農作物

10月に搬入されたこまつな及びさつまいも(各3検体)の計6検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、こまつな1検体から農薬が検出されました。ただし、検出された農薬について残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農作物

9月に搬入されたいちご1検体、10月に搬入されたじゃがいも及びりんご(各3検体)の計6検体、11月に搬入されたかき、ねぎ及びほうれんそう(各3検体)の計9検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、いちご1検体、りんご3検体、ねぎ1検体及びほうれんそう2検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、検出された農薬について残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 輸入農作物(冷凍食品を含む)

9月に搬入されたいちご、冷凍未成熟いんげん(各2検体)等の計13検体、11月に搬入されたキウイ、パプリカ、ぶどう、ブロッコリー及び冷凍ほうれんそう(各1検体)の計5検体について残留農薬検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、いちご2検体、冷凍未成熟いんげん1検体、冷凍いちご1検体、冷凍チンゲンサイ1検体、パプリカ1検体、ぶどう1検体及び冷凍ほうれんそう2検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、7ページからの【農薬解説】を参考にしてください。



表1 残留農薬検査結果

(H22年9月～H22年12月末)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農作物						
こまつな	横浜市	3	1	アセタミプリド クロルフェナピル	0.07	5
					0.02	5
さつまいも	横浜市	3	0			
国内産農作物						
いちご	国産	1	1	アセタミプリド	0.46	5
じゃがいも	国産	3	0			
りんご	国産	3	1	ピラクロストロビン ボスカリド アセタミプリド チアクロプリド ボスカリド アセタミプリド シハロトリン ピラクロストロビン ボスカリド	0.01	1
					0.05	3.0
			1		0.03	5
					0.01	2
					0.01	3.0
			1		0.06	5
					0.02	0.4
					0.01	1
				0.08	3.0	
かき	国産	3	0			
ねぎ	国産	3	1	アゾキシストロビン シベルメトリン	0.01	7.5
					0.02	5.0
ほうれんそう	国産	3	1	シベルメトリン	0.02	2.0
			1	イミダクロプリド	0.59	2.5
輸入農作物						
いちご	アメリカ	2	1	ジクロルボス及びナレド ピリメタニル フルジオキシニル ミクロブタニル アセタミプリド ピラクロストロビン ピリメタニル ボスカリド ミクロブタニル	0.01	0.3
					0.26	10
					0.04	5
					0.01	1.0
			1		0.05	5
					0.06	0.5
					0.03	10
					0.25	15
					0.22	1.0
冷凍未成熟いんげん	タイ、中国	2	1	アゾキシストロビン	0.02	3.0
冷凍いちご	北米	1	1	カルバリル メトキシフェノジド	0.03	7
					0.02	2
冷凍グリーンピース	ニュージーランド	1	0			
冷凍ごぼう	中国	1	0			
冷凍さといも	中国	1	0			
冷凍たけのこ	中国	1	0			
冷凍チンゲンサイ	中国	1	1	イミダクロプリド クロルフェナピル シベルメトリン	0.03	5
					0.11	10
					0.44	5.0
冷凍ブロッコリー	中国	1	0			
冷凍ほうれんそう	中国	2	1	シベルメトリン	0.15	2.0
			1	アセタミプリド イミダクロプリド シベルメトリン	0.01	5
					0.01	2.5
					0.03	2.0
冷凍マンゴー	タイ	1	0			
キウイ	ニュージーランド	1	0			
パプリカ	ニュージーランド	1	1	イミダクロプリド	0.02	3
ぶどう	アメリカ	1	1	ボスカリド	0.06	10
ブロッコリー	アメリカ	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)
BHC (、 、 及び の和)	0.005	ジコホール	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT (DDE、DDD 及び DDT の和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シフルトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメチルピホス	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロピン	0.01	ジメトエート	0.01	フェンバレレート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	シメトリン	0.01	フェンピロキシメート	0.01
イソフェンホス	0.01	スルプロホス	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソプロカルブ	0.01	ダイアジノン	0.01	ブタクロール	0.01
イプロベンホス	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタミホス	0.01
イミダクロプリド	0.01	チアメトキサム	0.01	ブプロフェジン	0.01
インドキサカルブ	0.01	チオベンカルブ	0.01	フルジオキサニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルシトリネート	0.01
エチオン	0.01	テトラクロルピホス	0.01	フルトラニル	0.01
エトプロホス	0.005	テトラコナゾール	0.01	フルバリネート	0.01
エトリムホス	0.01	テトラジホン	0.01	プロシミドン	0.01
エンドスルファン (及び の和)	0.005	テブコナゾール	0.01	プロチオホス	0.01
エンドリン	0.005	テブフェノジド	0.01	プロパホス	0.01
オキサミル	0.01	テブフェンピラド	0.01	プロピザミド	0.01
カズサホス	0.01	テフルトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カフェンストール	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロモプロピレート	0.01
カルバリル	0.01	デルタメトリン及び トラロメトリン	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クレソキシムメチル	0.01	テルブホス	0.005	ヘキサフルムロン	0.01
クロチアニジン	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘブタクロール (エポキシドを含む)	0.005
クロマフェノジド	0.01	トリアジメホン	0.01	ベルメトリン	0.01
クロルピリホス	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ベンコナゾール	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオン	0.01	ホサロン	0.01
クロルフェナビル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェンソン	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	マラチオン	0.01
クロルフェンピホス	0.01	ピフェントリン	0.01	マイクロブタニル	0.01
クロルプロファミ	0.01	ピペロホス	0.01	メチダチオン	0.01
クロロクスロン	0.01	ピラクロストロピン	0.01	メキシフェノジド	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メタクロール	0.01
シアノホス	0.01	ピリプチカルブ	0.01	メトリブジン	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メピホス	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	リニユロン	0.01
ジクロラン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リンデン(-BHC)	0.002
ジクロルボス及びナレド	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01

DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【農薬解説】

アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。広く使用されている有機リン系農薬などに対して効きにくくなった多くの害虫に対しても効果があります。

4～8月に実施した検査において、アスパラガス、キャベツ、チンゲンサイ、トマト、ピーマン及びびももから検出された農薬です。

アゾキシストロビン

『アミスター』などの商品名で販売されている殺菌剤で、多くの菌類に対し強い抗菌効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、4～8月に実施した検査において、ぶどう及びびももから検出された農薬です。

イミダクロプリド

『アドマイヤー』などの商品名で販売されている殺虫剤で、即効的な殺虫効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、4～8月に実施した検査において、グリーンカール及びほうれんそうから検出された農薬です。

カルバリル

『セピン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、主としてウンカ・ヨコバイ類の防除に使用され、松くい虫の予防剤としても用いられています。平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

4～8月に実施した検査において、キャベツ、なし、パプリカ、ピーマン及びぶどうから検出された農薬です。

ジクロルボス及びナレド

ジクロルボスは『DDVP』などの商品名で販売されている殺虫剤です。一方、ナレドは農薬登録が失効された殺虫剤です。ナレドは分解してジクロルボスになるため、併せて評価することになっています。

シハロトリン

『サイハロン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果樹や野菜などの害虫に効果があり、家畜防疫用としても使用されています。また、耐雨性及び耐光性に富み、長い残効性があります。

シベルメトリン

『アグロスリン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。広く使用されている有機リン系農薬などに対して効きにくくなった多くの害虫に対しても効果があります。また、耐雨性及び耐光性に富み、長い残効性があります。

チアクロプリド

『バリアード』などの商品名で販売されている殺虫剤です。吸汁昆虫や咀嚼昆虫に効果があり、ミツバチなどに対しては影響が少ないとされる薬剤です。

ピラクロストロビン

『カルピオ』などの商品名で販売されている殺菌剤です。平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

ピリメタニル

『スカーラ』などの商品名で販売されている殺菌剤です。各作物の灰色かび病を中心に、いちごのうどんこ病やりんご等の黒色病に効果があります。平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

フルジオキシニル

『セイビアー』などの商品名で販売されている殺菌剤です。各作物の灰色かび病に対して極めて高い効果があります。

4～8月に実施した検査において、キャベツから検出された農薬です。

ボスカリド

『カンタス』などの商品名で販売されている殺菌剤です。各作物の灰色かび病や菌核病に対して高い効果があり、残効性や耐雨性もあります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、4～8月に実施した検査において、トマト及びパプリカから検出された農薬です。

マイクロブタニル

『ラリー』などの商品名で販売されている殺菌剤です。野菜や果樹などのうどんこ病、さび病、黒星病などに有効的で、予防効果と治療効果を併せ持っています。

メトキシフェノジド

『ランナー』などの商品名で販売されている殺虫剤です。種々の鱗翅目害虫に対して異常脱皮を促すことによって殺虫効果を示す農薬です。

4～8月に実施した検査において、ピーマンから検出された農薬です。

参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2001年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)
- ・農林水産消費安全技術センター及び各農薬製造会社H.P.

【検査研究課 微量汚染物担当】